

◆ 首里織 ◆

城下町として栄えた首里では、王府の貴族、士族用に、色、柄ともに、麗美な織物が織り継がれてきました。

原材料は絹糸を中心に木綿糸、麻糸、芭蕉糸の素材を用い、染料は琉球藍、福木などの植物染料及び化学染料を用いています。首里織という名称は首里に伝わる種々の紋織や、緋織物を総称する名称として命名されました。



那覇伝統織物事業協同組合

◆ 琉球びんがた ◆

沖縄の地で生まれ育った唯一の染め物。早くは13世紀から起源を持つといわれる「琉球びんがた」。紅型とは、豊かな自然風土の中で生まれ、独自の染技ではぐまれてきた沖縄の染め物の総称です。一枚の型紙で連続的に型付けをするのが特徴の一つです。長い歴史の中で古くは王族や士族をはじめ、今なおその独特な美しさ・華やかさで人々を魅了し続けています。



琉球びんがた事業協同組合



沖縄の伝統工芸品である、「首里織」・「紅型」を使ったマスクを着用しています。

布地の下には“不織布”が織り込まれています。繰り返し洗って使える、エコで衛生的なマスクです。



※写真はイメージです。



沖縄の伝統工芸品である、「首里織」・「紅型」を使ったマスクを着用しています。

布地の下には“不織布”が織り込まれています。繰り返し洗って使える、エコで衛生的なマスクです。



※写真はイメージです。